

世界最北のサイエンスの町・ ニーオルスンをご存知ですか？

新刊 / 2025年2月27日搬入予定

ニーオルスンってどんなところ？

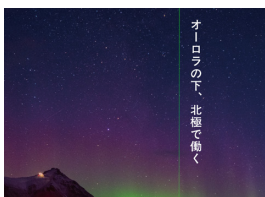
北緯78度55分、11か国の観測施設が集う世界最北の「国際観測拠点」。
大気、雪氷、生物、宇宙など様々な分野の観測が日々行われている北極研究の最前線。
Wi-Fiの使用禁止、建物の施錠不可といった特殊なルールがある。かつては炭鉱で
栄え、探検家の拠点となった後、サイエンスの町として生まれ変わった。

『ナショナルジオグラフィック』（2024年12月号）で
ニーオルスンの特集記事が生まれ、話題！



オーロラの下、北極で働く

写真・文 松下隼士



オーロラの下、北極で働く

レーザー光線が天に向かう、
世界最北のサイエンスの町・ニーオルスンへ。
オーロラが一日中燃めくこの地に、世界中から研究関係者が集う。ここには許可を得た者しか滞在できず、Wi-Fi禁止、ライフル携帯といった特殊な生活ルールが課される。時にホッキョクグマが現れる町で観測を続け、各国の滞在員達と氷点下のマラソンや太陽のパーティーなど個性豊かなイベントを楽しむ。国立極地研究所の元技術職員であり、元南極越冬隊員でもあった著者が、誰もが知っている北極の、誰もが知らない一面を、つぶさに綴った滞在記。

カバーには、極夜にオーロラが揺らめき、観測用の緑色のレーザー光線が天に向かう、まるでSFの世界のような写真を採用。現実とは思えない光景がこの地では日常の、ニーオルスンを象徴する一枚(左)

透け感のある帯には、オーロラのようなグラデーションがあったコピーが入り、カバーとの親和性が高いデザインになっている(上)

写真・文 松下隼士

オーロラの下、北極で働く

誰もが知っている北極の、
誰もが知らない一面を、
国立極地研究所元職員であり
元南極越冬隊員でもあった
著者がつぶさに綴る滞在記！

観測技術者とは？

現地に滞在し、研究者のサポートから、護衛、除雪、広報までをこなす「何でも屋」のような仕事。ちなみに著者は、この職業でニーオルスンに長期滞在した初めての日本人。

松下隼士 Junji Matsushita

石川県金沢市生まれ。大学卒業後、海洋地球研究船の乗船技術者として世界各地の海洋観測に従事。その後、大気観測の技術者を経て、南極地域観測隊の夏隊、越冬隊、東京海洋大学の南大洋航海に参加。2019年より北極圏スバル諸島にあるニーオルスン国際観測拠点に長期滞在し、世界各国の滞在員と生活しながら研究観測に従事。2023年に富山へ移住。

- ・許可なく滞在できないこの町に、世界中から研究者が集う
- ・ホッキョクグマ対策として観測にはライフルを持って行く
- ・一日中オーロラが煌めき、レーザー光線が夜空に飛ぶ日常
- ・氷点下のマラソン、ダンスパーティーなどの個性豊かなイベント
- ・温暖化の進行が特に早く、地球の未来を知る研究・観測の最重要地

壮大な自然、多種多様な野生動物、世界各国の滞在員達との交流、極夜・白夜中のルーティンなど、ニーオルスン滞在中に見た・感じたことをまとめた4年間の記録。



タイトル：オーロラの下、北極で働く
著：松下隼士 協力：国立極地研究所
予価：1870円（本体1700円＋税）
仕様：四六判 / 並製 / 4C・IC/244P
ISBNコード：978-4-8441-3812-9 図書コード：C0026

5冊以上のご注文につき、拡材をご用意いたします。

A4 パネル・POP

※ご希望の拡材に○をお付け下さい。

2 / 17 (月) 注文締切	新刊委託
	帳合・貴店名
	ご担当者名
	様
	冊